

ACO じょいふる事業所自己評価シート

職員による自己評価

実施：令和 6年2月 回答3名

A環境面

1. 訓練室等スペース
100%確保されているとの評価だった。
2. 職員の配置数
66%が適切であるという評価だった。
3. 設備においてバリアフリー化の配慮
100%適切であるという評価だった。

B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画
100%が評価していた。
5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか
100%の評価だった。
6. 自己評価結果の公開
100%が適切に公開しているという評価だった。
7. 外部評価について、
100%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。
8. 研修の機会確保
100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成
100%が適切にできているとの評価だった。
10. 標準化されたアセスメントツールの使用
100%が使用できていると評価している。
11. 活動プログラムの立案
100%がチームで行うことが出来ていると評価している。
12. 活動プログラムの工夫
100%が固定化しないよう工夫していると評価している。
13. 課題設定に応じた支援内容
100%が出来ていると評価している。
14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成
100%が出来ていると評価している。
15. 支援開始前の打ち合わせをしている。
100%が出来ていると評価している。
16. 支援終了時の振り返り
100%が出来ていると評価している。
17. 記録の徹底、支援の検証・改善
100%が出来ていると評価している。

保護者による評価

実施：令和 6年2月 回答41名 未回答2名

A環境面

1. 活動のスペース確保
92%確保されているとの評価だった。
2. 職員の専門性
97%が適切であるという評価を得られた。
3. 設備
82%がバリアフリー化の配慮がされていると評価していた。詳しくわからないの回答が12%の評価であった。

B児童への支援内容

4. 個別支援計画作成
90%客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価だった。
5. 活動プログラムの工夫
87%工夫されているという評価だった。

C事業所からの情報発信

6. 利用者負担や支援内容の説明
90%丁寧な説明がなされたという評価であった。
7. 子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解
100%できている評価であった。
8. 保護者面談や育児相談の支援
95%が適切に行われているという評価であった。
9. 保護者会など保護者同士の連携
75%と評価が低い結果であったが、SST教室に参加されている保護者同志は連携がとれている、との意見が聞かれている。
10. 苦情に対する対応
87%が適切に対応していると回答している。わからないという回答が10%いるため周知徹底が課題として考えられる。
11. 意思疎通や情報伝達のための配慮
97%が適切であると評価している。
12. 情報発信について
94%が適切であると評価している。コドモンにて連絡を密にしていた結果と捉える。
13. 個人情報について
87%は十分に注意しているとう評価であった。

18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し

100%が出来ていると評価している。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援

100%が出来ていると評価している。

D 関係機関と保護者との連携

20. 相談支援のサービス担当会議への参画

100%が適切な人材が参画していると評価している。

21. 学校との情報共有、連絡調整

100%が適切に行っていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

100%が適切にできていると評価している。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解

100%が出来ていると評価している。

24. 事業所を移行するときの情報提供

100%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用

100%が出来ていると評価している。

26. 放課後児童クラブや児童館との交流

66%が出来ていると評価している。

27. 地域自立支援協議会等への参加

100%が出来ていると評価している。

28. 利用者に関する保護者との共通理解

100%が出来ていると評価している。

29. ペアレントトレーニング等の保護者支援

100%が出来ていると評価している。

E 保護者への説明責任

30. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

100%が丁寧な説明を行っていると評価がある。

31. 保護者からの相談対応の支援

100%が出来ていると評価している。

32. 保護者同士の連携の支援

66%が出来ていると評価している。

33. 子どもや保護者からの苦情

100%対応できていると評価している。

34. 定期的に会報誌発行を行い情報発信している

100%出来ていると評価している

D 非常対応

14. 緊急時対応、防犯、感染症対応について、89%が適切に対応していると評価している。

15. 非常災害の訓練

85%が適切に行われていると評価している。

E 満足度

16. 通所を楽しみにしている

85%が楽しみに通っていると評価している。どちらとも言えないの回答が15%の評価であった。

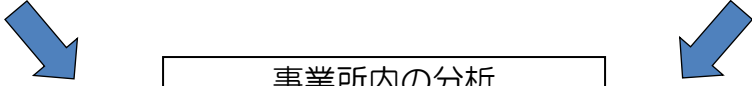
17. 支援への満足

評価は95%であり、保護者の支援に対する満足は得られていると考える。

35. 個人情報に十分注意している
100%出来ていると評価している。
36. 子どもや保護者との情報伝達をしている
100%評価している。
- 37.事業所行事に地域住民の招待等行っている
66%の評価である。

F 非常時等の対応

38. マニュアルの策定と周知
100%が出来ていると評価している。
39. 定期的な避難訓練、救出その他の訓練実施
66%の評価であった。避難場所への誘導まで
ができていないための評価が低くなっている。
40. 虐待防止のための研修と対応の周知
100%出来ていると評価している。
41. 身体拘束について保護者への説明と同意
100%出来ていると評価している
42. アレルギーのある子どもへの対応
100%出来ていると評価している
43. ヒヤリハット事例の共有
100%出来ていると評価している



事業所内の分析

【共通点】

環境面：職員の配置や専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化については、保護者に説明不十分などところがあると考えている。

児童への支援内容：職員・保護者様ともに評価が高い内容が多かった。保護者様からは個別支援、集団支援など子どもの特性に合わせたプログラムや親御さんへの丁寧な対応を評価していただく意見が多かった。

事業所からの情報発信：広報誌に、支援の様子やイベントの様子などを載せて定期的に発行することで理解していただいていると考える。

非常対応：避難訓練に関しては室内プログラムでの避難経路や防災知識の向上は行えているが実際の避難場所に誘導や、引き取り訓練に関しての活動ができていない状況にある。

【相違点】

環境面：活動のスペースは職員が思っているよりも十分確保できていると評価しているが保護者からは詳しくわからないとの回答があり保護者への説明不足からの回答と考える。

児童への支援内容：活動プログラムについての工夫において、よくわからないとの意見が一部あり情報発信を徹底していく必要があると考える。

事業所からの情報発信：広報誌の発行で情報の発信に加えて、保護者会とイベントを同日に企画したが、参加者が少ない状況であった。次年度は、開催時期や方法など検討が必要と考える。

非常対応：実際の避難訓練ができていないことやイベントとして計画はされても実際の参加者が少なかった。また緊急時対応、防犯、感染対策マニュアルに沿った対応がされているかよくわからないとの回答も多く、定期的な情報発信も必要と考える。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・職員に専門性がある。
- ・適切なアセスメントを行い客観的に分析し計画作成している。
- ・医療、学校、家庭や他機関（療育センター、児童相談所、区行政など）との連携が実践的に行なっている。
- ・法人内に保育所等訪問支援があり、学校での問題行動にも連携対応できる。
- ・看護師、教員などの有資格者がいる事業所である。

事業所の改善点

- ・苦情対応などの対応方針を契約時のみでなく定期的に告知する機会を増やすことで、保護者の周知徹底を促す。
- ・非常対応においては、緊急時対応に関しては親子参加型のイベントとして年2回実施し、感染対策に関しては季節ごとの情報発信と月間プログラムに入れる等計画して行う。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① バリアフリー化の配慮を確認していただける機会を設けるため、年に1度施設見学会や保護者会を定期的に行い事業所に足を運んでもらえるような機会を設ける。

支援内容：

- ① 子どもや保護者の要望を話し合いながら取り入れ、活動プログラムの工夫を図る。
- ② コドモンによる連絡手段を活用し日々の活動状況の共有を行う。
- ③ 苦情対応のスタッフ間の手順の理解と丁寧な対応を学び実践していく。
- ④ 保護者とのコミュニケーションをとっていく。育児の不安に気づき、職員が育児や相談の面談を実施していく。

情報発信：

- ① 保護者会、談話会、交流会を定期的に開始する計画を立案し、今後も継続的に実施する。

非常対応：

- ① 緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知を徹底する。
- ② 災害時訓練の年4回の実施を放課後教室のみにならないよう個別支援、学習支援。また避難訓練利用者も参加できるような方法で避難訓練を年2回実施する。

その他：

業務改善において、非常勤や常勤の職員の共通理解を図り、温度差が起こらないように人材育成をし、問題が起こらないように業務の改善を図る。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者の方から評価を受けることで、改めて当事業所の強みや改善点を知ることが出来ました。職員は利用者様のことを理解し保護者の方へ伝える工夫や保護者との連絡を密に取ることで信頼関係を築き親子支援が成立して行くことを再確認することができました。事業所の組織やシステム作りなど弱みの部分を踏まえて改善を図り、子どもや保護者の方々と共に健康的な生活が送れるよう支援を目指していこうと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスじょいふる 担当者
中村 三奈美